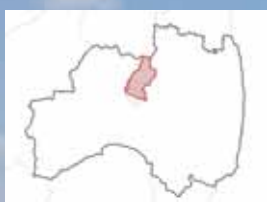


猪苗代町における専門職員と 集落との連携による対策の取組について

(福島県市町村リーダー育成モデル事業について)

福島県猪苗代町役場農林課

福島県 猪苗代町



人口・世帯

・人口: 14,445人
・世帯: 5,433帯 H30 8月末現在

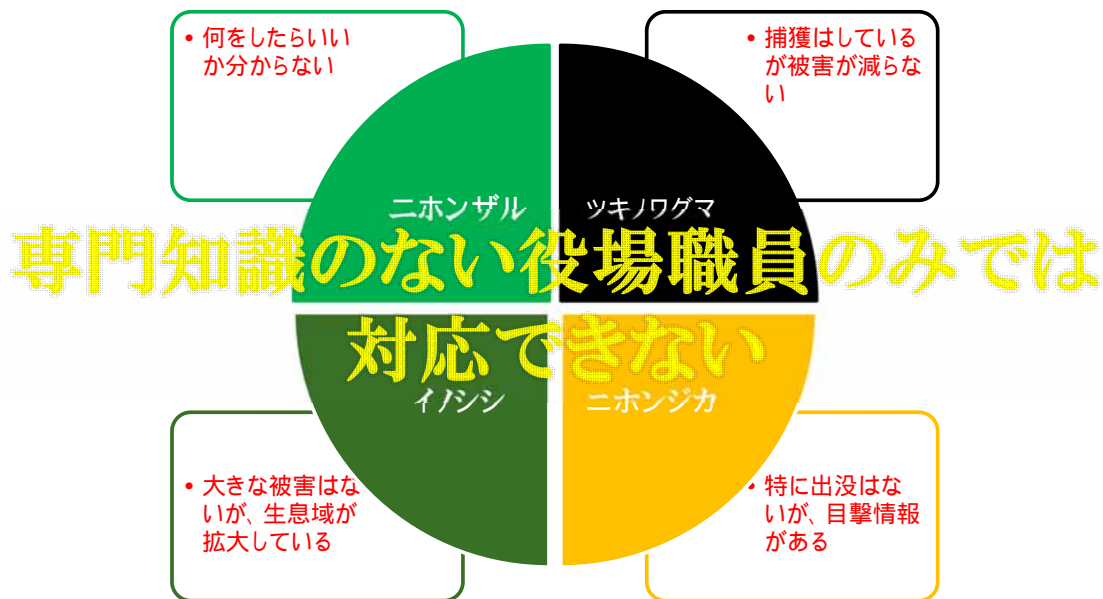
産業

・観光
・農業(主に米、蕎麦が盛ん)

- ・北に磐梯山、南に猪苗代湖を有する。
- ・町内に活火山(磐梯山・安達太良山・吾妻山)を3つ抱える珍しい自治体
- ・町の木: ナナカマド、町の花: サギソウ、町の鳥: ハクチョウ
- ・隣接市町村: 福島市、二本松市、郡山市、会津若松市、磐梯町、北塩原村、山形県米沢市

写真: 磐梯山

鳥獣害対策専門職員の配置前(～H21)



猪苗代町の専門職員の業務

所持資格: 銃砲所持許可(散弾銃、空気銃、麻醉銃)、第1種銃猟免許
わな猟免許、麻薬研究者

モニタリング調査における発信器装着(ニホンザルなど)
(麻醉薬を使用した捕獲個体に負荷をかけない装着)

ニホンザル群のモニタリング調査における個体カウント
(頭数、雌雄、年齢構成)

各講習会の講師、被害対策の立案

県保護管理事業への協力
(錯誤捕獲の放獣に係る個体の不動化、市街地迷入個体の不動化など)

傷病鳥獣の保護に関する初期対応・県野生生物共生センターへの迅速な搬送

会津北部地域鳥獣害防止広域対策協議会事務局
(喜多方市・北塩原村・磐梯町・猪苗代町・西会津町)

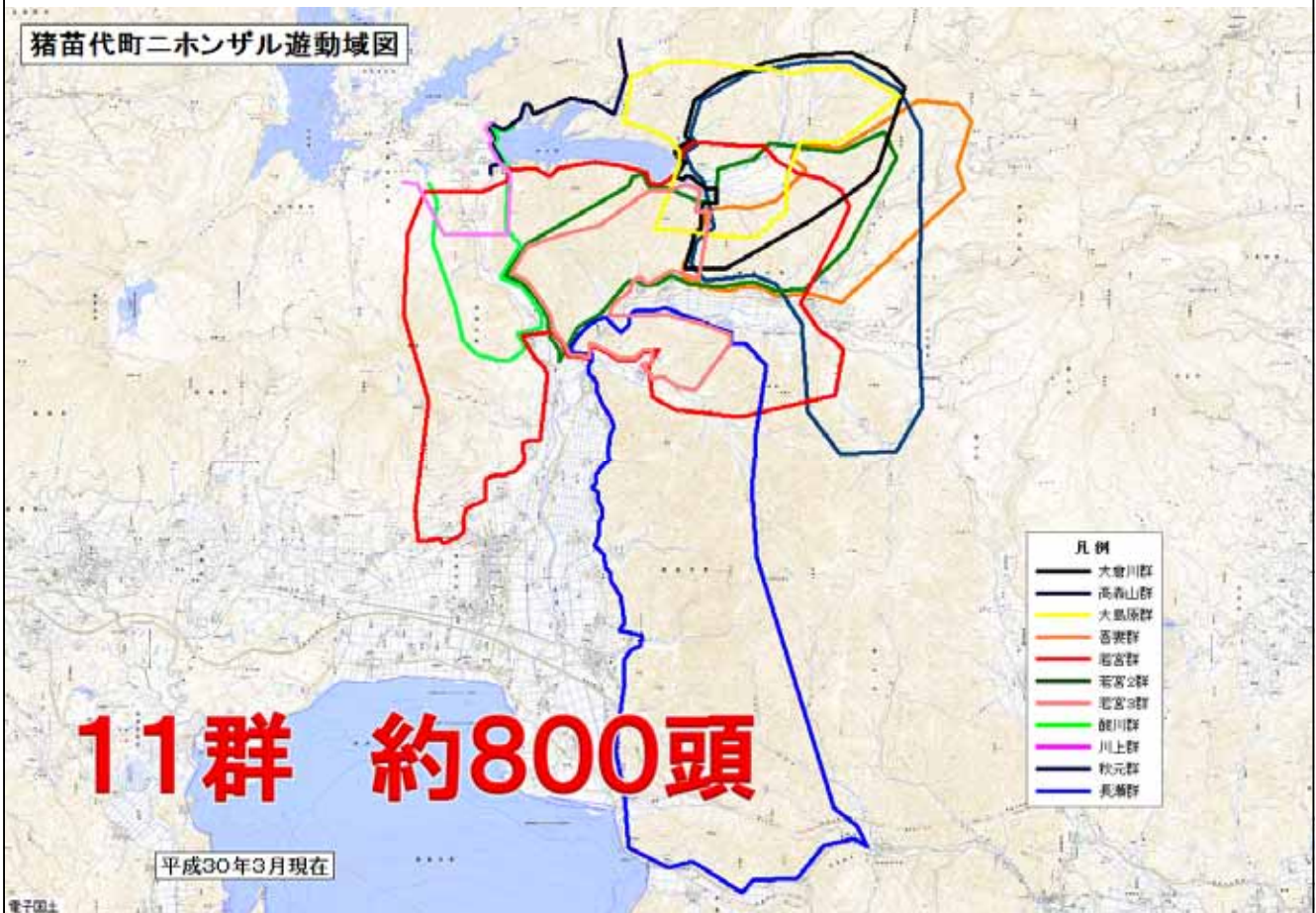
聞き取り調査による群別予想遊動域



4群 約350頭

平成16年度 ニホンザル生息状況聞き取り調査報告書より (JA新ふくしま)

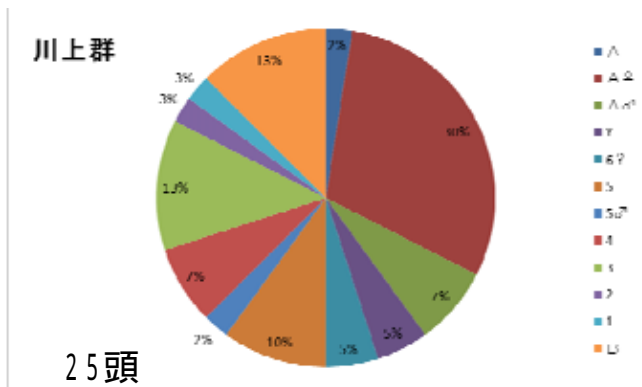
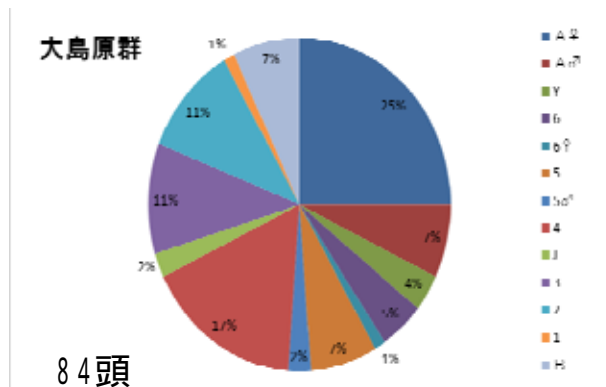
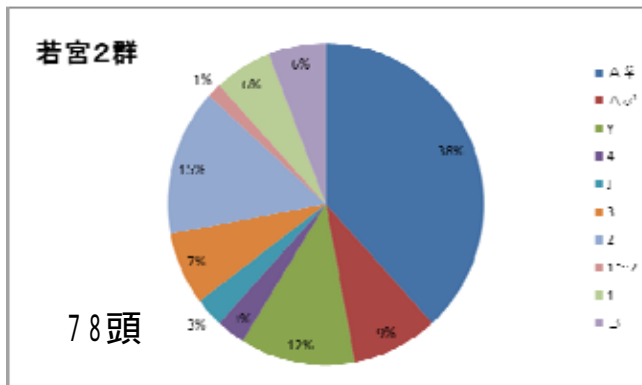
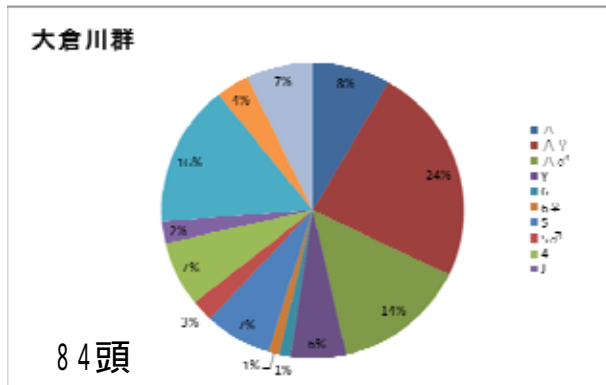
猪苗代町ニホンザル遊動域図



11群 約800頭

平成30年3月現在

ニホンザル頭数調査(雌雄・年齢構成)



猪苗代町の専門職員の業務

所持資格: 銃砲所持許可(散弾銃、空気銃、麻醉銃)、第1種銃猟免許
わな猟免許、麻薬研究者

モニタリング調査における発信器装着(ニホンザルなど)
(麻醉を使用した捕獲個体に負荷をかけない装着)

ニホンザル群のモニタリング調査における個体カウント
(頭数、雌雄、年齢構成)

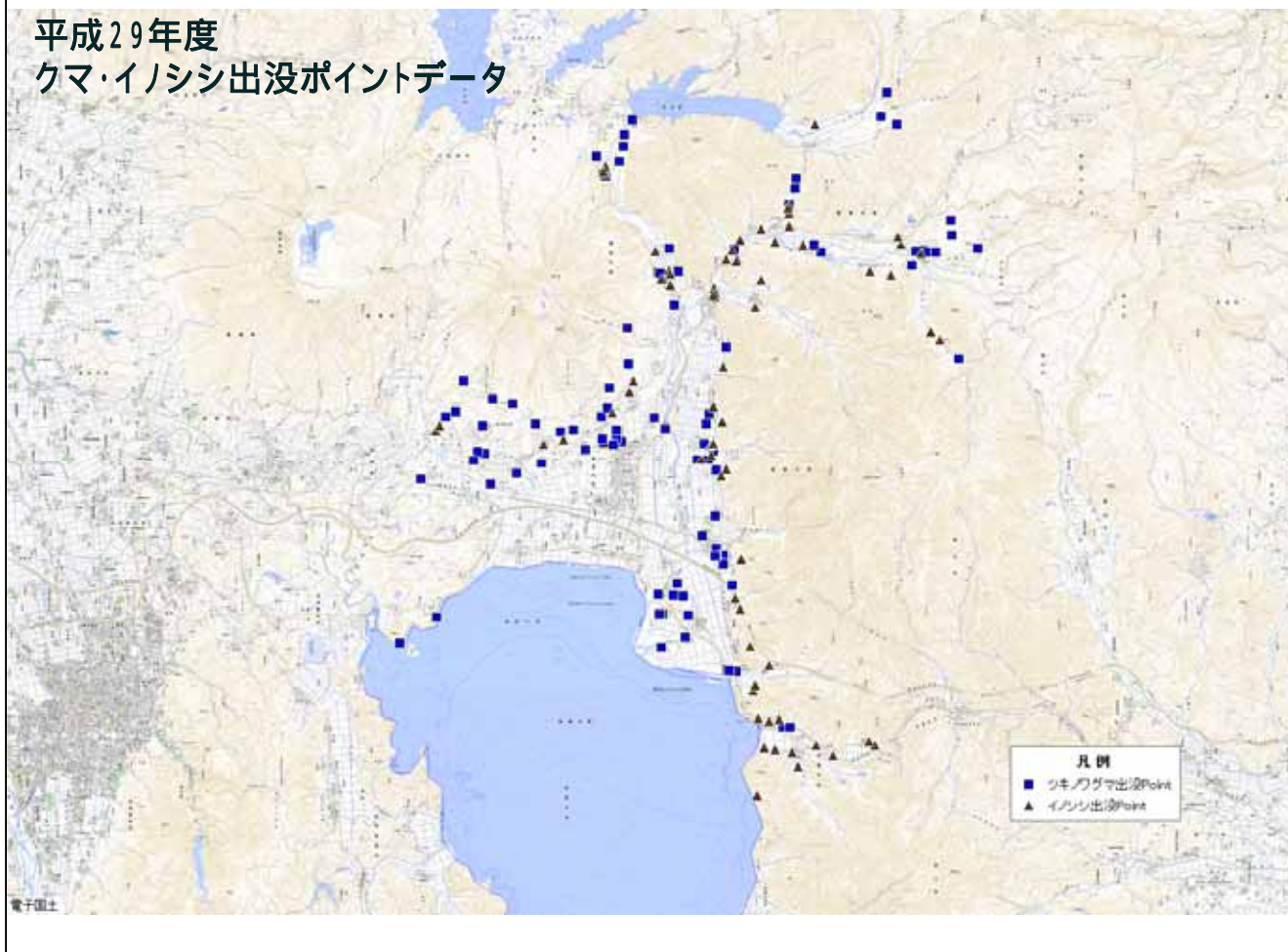
各講習会の講師、被害対策の立案

県保護管理事業への協力
(錯誤捕獲の放獣に係る個体の不動化、市街地迷入個体の不動化など)

傷病鳥獣の保護に関する初期対応・県野生生物共生センターへの迅速な搬送

会津北部地域鳥獣害防止広域対策協議会事務局
(喜多方市・北塩原村・磐梯町・猪苗代町・西会津町)

平成29年度
クマ・イノシシ出没ポイントデータ



猪苗代町の専門職員の業務

所持資格: 銃砲所持許可(散弾銃、空気銃、麻酔銃)、第1種銃猟免許
わな猟免許、麻薬研究者

モニタリング調査における発信器装着(ニホンザルなど)
(麻酔を使用した捕獲個体に負荷をかけない装着)

ニホンザル群のモニタリング調査における個体カウント
(頭数、雌雄、年齢構成)

各講習会の講師、被害対策の立案

県保護管理事業への協力
(錯誤捕獲の放獣に係る個体の不動化、市街地迷入個体の不動化など)

傷病鳥獣の保護に関する初期対応・県野生生物共生センターへの迅速な搬送

会津北部地域鳥獣害防止広域対策協議会事務局
(喜多方市・北塩原村・磐梯町・猪苗代町・西会津町)

鳥獣害対策メールマガジン

○鳥獣害対策メールマガジン
2017/5/8(火)

- ニホンザル(若宮群)
- 5月8日(火)16:00
- 見祢山区北西側
- 見祢山集落から北西に約2.5kmの山中にいました。見祢山方面はご注意ください。

猪苗代町農林課

登録者 約150名(配信希望者)

5月～11月 平日の群れの位置
クマ・イノシシ等の出没情報



併せて

集落へ受信機貸出

- ・ 専門職員が巡回できない時間帯でも集落独自に電波受信可能
- ・ 多くの視点から群れを監視

行政区別鳥獣害対策研修会



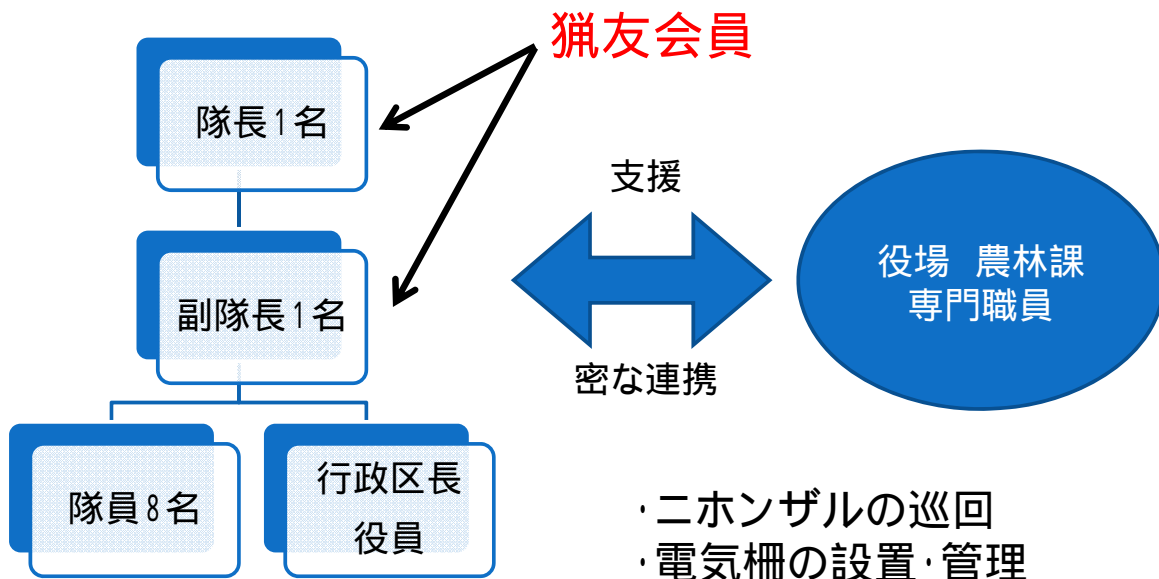
立案した対策を発表

最終目標→集落独自の鳥獣害対策組織の設立

鳥獣の出没・被害箇所の確認



白津区鳥獣害対策係



- ・ニホンザルの巡回
- ・電気柵の設置・管理
- ・集落付近の痕跡調査
- ・集落への普及啓発

白津区広域電気柵



専門職員配置後の成果

農作物被害の減少

ニホンザル対策では、詳細なモニタリング調査を行うことにより、群れ管理が可能となったことから、住民主体の効果的な対策を実施することにより、農作物被害は年々減少傾向にある。(約170万円(平成22年) 約40万円(平成29年))

ツキノワグマ対策では、適正な電気柵設置の普及指導や、緩衝帯整備の実施により、大量出没年(平成22年、24年、26年、28年)においても約30万円となった。

集落ぐるみで行う対策の波及

白津集落では、専門職員との密な連携を行い、住民主体で対策に取り組み、集落での生活環境被害及び農作物被害はほぼ見られなくなった。

さらに周辺集落へ白津集落の取り組みが波及し、集落独自の対策組織を設立し、対策に取り組む集落が増加している。



鳥獣被害対策優良活動表彰 農村振興局長賞 受賞 (農水省:平成27年度)

鳥獣被害対策専門員に関する調査結果 (福島県:H28)

県内59市町村へアンケートを実施

Q: 専門職員の必要か？

A: 専門職員の配置は、**県全体の約72%が必要**と回答

Q: 専門職員に期待する業務は？

A: 「被害状況の把握」「技術的支援」「被害防止計画の立案」の順に期待されている各市町村の担当者は、**専門性の高い業務の実施**が難しい状況

Q: 専門職員を配置しない理由は？

A: 「**財政的に困難**」と「**人材の確保が困難**」が約80%を占めている



県内の多くの市町村が専門職員を必要と
考えている！！

県と市町村の連携

市町村リーダー育成モデル事業の取組(H30年度)

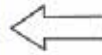
【現状と課題】 鳥獣被害対策は、猪苗代町の事例のように市町村リーダーによる住民と連携した総合的な対策の取組が効果的。しかし、各市町村では、人事異動や復興業務を優先する中でマンパワーが不足し、専門性の高い業務の実施は困難。
 【対策】 鳥獣に応じ、集落ぐるみから市町村間の広域連携対策まで実践可能な市町村リーダーの育成モデルを短期間に実証。

福島県内の専門職員配置市町村

- ・猪苗代町 4名(正職員1名、嘱託員2名、地域おこし協力隊員1名)
- ・福島市 1名(有害鳥獣被害対策協議会)
- ・磐梯町 1名(嘱託員)
- ・喜多方市 1名(嘱託員)
- ・柳津町 1名(嘱託員)
- ・西会津町 1名(嘱託員)

市町村リーダー育成モデル事業

※広域的な生息状況調査等
 ○広域被害防止計画の策定



集落ごとの対策の展開
 ○集落の実情(農作物、地形等)に応じた対策の指導実践
 ○市町村の被害防止計画の策定
 ○補助事業のコーディネート



3年後、農業者の生産意欲向上による地域振興に結びつく市町村リーダー育成モデルの確立！！

県と市町村の連携

鳥獣被害対策市町村リーダー候補者育成業務のイメージ

【現状と課題】

- ① 全国的に専門職員(実地経験を積んだ大学等の卒業生等)の需要は高く、31年度以降、これらの人材が不足することは明らか。
- ② 市町村リーダー参入希望者は雇用条件や担当業務の内容を予め把握したい。迎える側の市町村等は参入者がどれだけ戦力となるか不明。マッチングが課題。
- ③ 市町村等が自ら上記の人材育成やマッチングに取り組むことは全国でも事例がない。

【対策】

- ① 県は、市町村リーダー候補者の人材育成により戦力となる人材を育成。
- ② 県は、市町村リーダー候補者と市町村等とのマッチングを実施。
- ③ 全国に先駆け、県が緊急的に人材育成・マッチングシステムをモデル的に構築。

県事業

市町村リーダー候補者の募集

- (県)
 ○大学や専門学校などを訪問し、候補者を募集
 ○首都圏等における鳥獣関係活相談会への参加
 (委託業者(人材派遣会社))
 ○公共職業安定所などを活用して、候補者を募集

市町村リーダー候補者の育成・マッチング (県と人材派遣会社の連携によりマッチング)

市町村リーダー候補者の人材育成

- 委託業者によるスキル向上支援※
 ・被害状況調査
 ・被害防止対策手法の実践
 ・集落環境診断の実施

市町村リーダー候補者と市町村等とのマッチング

- 市町村へのヒアリング(業務内容、就業条件等)によるニーズの把握→ニーズとのマッチング(人材紹介)→職場見学(実習)
 →市町村等による雇用を目指す

人材育成・マッチングシステムのモデル構築

※人材派遣会社は、団体等(鳥獣被害対策を業務とする者)に対して、業務期間中に市町村リーダー候補者を派遣し、現地での実務研修を実施する。
 なお、研修内容については野生鳥獣による農作物被害対策に関連するものとするが、具体的な内容、実施場所及び日程等については、発注者、受託者、派遣先団体等及び候補者で事前に協議のうえ、決定することとする。

対策を行うための重要なポイント

